

令和 2 年 7 月 15 日現在

機関番号：33709

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K12122

研究課題名（和文）ネウボラの可視化と評価から新日本版ネウボラ子育て支援構築とその課題や展望

研究課題名（英文）Development of a new Japanese version of neuvola: continuous child care support, through the visualization of neuvola and assessment, challenges, and prospects

研究代表者

内藤 直子（NAITOH, NAKO）

岐阜保健大学・看護学部・教授

研究者番号：00290429

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：フィンランドでネウボラ保健師と利用の母親、関連保育園長、ネウボラ運営・企画者の実態調査を行った。ネウボラ全体の可視化と評価を5論文公表した。国内で助産師や保健師と連携し、協力のA保健センターでネウボラ的支援センターやB大学でネウボラの継続母子支援センターを開設し0～6歳児母子支援を実施した。現在全国で「子育て世代包括支援センター・日本版ネウボラ」が設置されユニークな実践が開始された。今後は成果の「新日本版ネウボラ子育て支援構築図」の従来の独自支援法で、保助看専門職に多職種連携し自由度の高い地域性を尊重した市町村を交えソーシャルキャピタルで、高齢者と子どもの世代間交流の支援が必要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果では、進行に伴い適時タイムリに、フィンランドのネウボラ保健師と利用の母親、関連保育園長、ネウボラ運営・企画者の実態調査を写真撮影を交えて学会で公表した。どの学会でも、多くの関心が寄せられ、丁寧に質問に対応した。学会参加の全国の助産師や保健師の参考となり、学術的に貢献できたと考える。学術誌には本成果を6論文公表した。

社会的意義では、ソ・シャルキャピタル醸成を旨として助産師や保健師、看護師、医師、保育士、ボランティア、地域職員等の同じ人で包括的継続的子育て支援がSDGSで無償で子育て家族に提供される基礎資料になり、将来的に、日本の少子問題に意義ある研究と思える。

研究成果の概要（英文）：To visualize and evaluate the entire Finnish “neuvola” system adopted in Japan, we conducted a comprehensive status survey, involving public health nurses in charge of neuvola services, mothers using them, and service managers/investigators/planners, and published 5 papers reporting the outcomes. Our results were utilized to initiate neuvola-based support through collaboration with midwives and public health nurses at a public health center and a neuvola-based maternal and child health support center organized within a university in Japan. Furthermore, neuvola-based comprehensive parenting support centers were established throughout Japan to develop unique practices. As a future challenge, it may be necessary to promote exchange between elderly people and children through interprofessional collaboration among public health nurses, midwives, and nurses, with municipalities that place importance on flexibility and using Japan’s original support methods and social capital.

研究分野：助産学、母性看護学、子育て支援

キーワード：ネウボラ フィンランド 地域包括継続子育て支援 母子健康手帳 出産ネウボラ 子どもネウボラ 母親 出産プレゼント箱

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

子育て家族は社会の宝物であるのは今も昔も未来も変わらない。子育ては生きがいであるが疲労も強いことを研究結果で示した。日本は「成育基本法」議員立法をめざし子育て支援を窓口1つで医療行政保健師介入を進め、2014年は29市町にモデル事業配置し、2015年度予算17億円を確保しネウボラモデルで150市町に拡大予定である。今回、同じ支援者が継続した場として「新日本版ネウボラ」を提案する。既報フィンランド研究(内藤2010)から、国家的資金の無料で総合的子育て支援のネウボラ活動に感動し、本当のネウボラ仕組みを解明する。現在の日本版ネウボラを分析、評価から日本文化独自の「ネウボラマン育成」「新日本版ネウボラ子育て支援構築案」を提案、地域で汎用を試みる。少子化を乗り越えたフィンランから赤ちゃん中心の安心・平等社会の子育て支援を検討する。

## 2. 研究の目的

ヘルシンキ市のネウボラ活動(出産育児相談所)の情報収集から取り入れる内容と日本の発想の転換の必要性などを分析する。日本のネウボラ実施5市の調査から、その課題と展望を検討する。「ネウボラの可視化と評価」から「新日本版ネウボラ構築案の課題と展望」からネウボラマン育成やソーシャルキャピタルを研究する。

## 3. 研究の方法(概略)

(1) 海外調査は、ネウボラ参加前後の意識調査、ナラティブ質的分析、日本やフィンランドのネウボラ運営とシステムの相違を解明する目的で混合型研究方法を行う。

(2) 対象は、在フィンランドの母親に調査、継続した人の支援で母親の不都合や困り事を分析

(3) 国内調査は助産師や保健師等の関連の専門職者や関連施設と検討会議を開催、実践評価。

(4) 日本の先駆的なネウボラ実施5市の現状のインタビュー実施し、質的量的に分析。

【倫理的配慮】人間環境大学の研究倫理審査委員会の承認と現地(フィンランド国立保健福祉研究所THLの母子保健部門研究総括部長)の承諾、ネウボラ実施者の保健師とネウボラ利用者の母親、関連の保育園長等の承諾書や同意書の署名を得て実施した。利益相反は認められない。

## 4. 研究成果

### 研究成果(1) ワークショップ開催：人間環境大学 4階の講義室

#### ワークショップ：フィンランドのネウボラから日本的課題を考える

日時は2017/07/21 17:10~18:10、場所は人間環境大学看護学部：404講義室

現在、子育て支援のあり方が大切な社会的課題である。今回、フィンランドのネウボラ視察の機会を得たので、写真を中心に「フィンランドのネウボラから日本の私たちからできる子育て支援は何かしら？」の話題を提供した。特別ゲストは南野知恵子・元参議院議員を招聘し、子育て研究から議員立法につなげる可能性についても、講演会を開催した(写真1)。



写真1：ワークショップの参加者

講演会参加者の感想の一部は「ネウボラを知ることは必要である。今回の研修に参加し有意義だったのは、日本の子育て制度や社会現状を広く様々な視点で再考できたこの機会

こそが、ネウボラを導入する一歩になる。切れ目のない母子ケアを導入している国の存在を知り、その恩恵を比較できる「場＝ラ」で広がる。専門家のみでなく母親や一般市民公開もよい。特に日本とフィンランドを比較したネウボラ検討は必要性であり世界の現状比較データから、日本の母子保健施策に、何を追加、何が求められるか根拠になる。セーブ・ザ・チルドレンの「母親指標～お母さんにやさしい国ランキング～(Mother's Index)」で、フィンランドはトップで、日本は32位、先進7カ国(G7)の中で最下位である。これには政治・経済などの指標を含むが、母子に特化した指標「育児不安」「育児ストレス」等を比較できると、日本の子育て問題が見える」など高い関心が示され、ワークショップ開催はネウボラ理解では社会的波及効果が見られた。

A study on child and family support in Finland's neuvola from pregnancy to preschool

In this study, the authors surveyed interviews regarding what mothers thought about their maternal and child health handbooks and "Present boxes", which were part of their support from Neuvola in Finland(Fig2-a,b) . The Maternal and child health handbook was designed to be very flexible (Fig 4) (Fig5) . Furthermore, in order to clarify ideas and characteristics of preschool education in Finland, semi-structured interviews were set up for teachers at a Neuvola-related nursery school, the results of which were analysed. The government gives free "present boxes" or gifts of money to mothers and children after delivery (Fig1-a,b) . Most mothers selected the "present boxes", and all of them were satisfied with the contents. Some, however, asked for another box. The Neuvola teacher interview surveys revealed that teachers did not direct infants to do things, respecting instead their free will and independence. It has been observed that this is common in preschool education in Finland, which is based on an independent learning-style, through play, promoting both self-sufficiency and originality (Fig3). Mothers are satisfied therefore with both the "present boxes" and the Neuvola teaching program.



Fig 2-a: Raunhankadun Neuvola-Porvoo Fig 2-b: Neuvolat "Happy or Not" Fig 5-a. The maternal and child health handbook

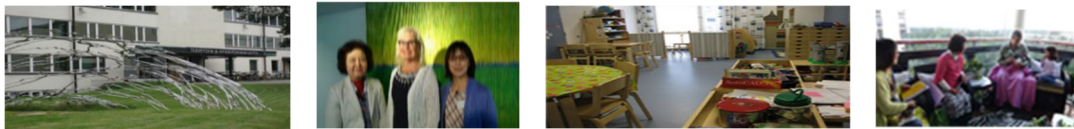


Fig 1-a: The photo is in front of the main gate of THL Fig 3 Preschool/day nursery in Kerava, playing space for each child

Fig 1-b: Dr. Hakulinen-Viitanen- Tuovi and the authors: Photo posting permission Fig 4 Mothe's interview

研究成果 (3) 岐阜保健大学紀要 Vol.1 公表論文: 内藤、朝岡、志戸岡、星、藏本、他 3 名

フィンランドにおける妊婦と子どもに対するネウボラの歴史的変遷からみた家族支援の施策  
 目的は少子社会で子育ての有効な方法を検討のため、フィンランドのネウボラ調査から特徴を分析し(表 4)、日本版ネウボラへの関連を検討した。ネウボラ担当の施策提案者へのインタビューやネウボラを利用した母親たちのインタビューからフィンランドのネウボラの評価を試み、歴史や現在の実態から日本に導入したい内容を検討した。結果ではフィンランドは出産ネウボラと子どもネウボラ、家族ネウボラや青少年ネウボラがシステムの運用されていた。妊娠期から子育て期、特別な対応のいる家族支援が、切れ目ない継続包括的な支援であった。フィンランドのネウボラ法によるネウボラ部門のミッションを抽出した。考察ではフィンランドと日本で、母子が支援提供者とのつながりやソーシャルキャピタル、互酬性でも論及した。

表4: フィンランドの母親が継続したネウボラ利用の実態 (n=8)

時相 / 事例 (末子で回答)	質問項目	1 1/2Y	2 4/14, 16.1 8.20Y	3 1/3Y	4 2/5Y	5 1/35Y	6 1/32Y	7 2/1.9- 3Y	8 2/4Y	平均数 異数/2
1 時相 出産ネウボラ (妊娠→出産)	相談職種/回数	11	12	12	12	7	8	10	13	10.6 (相談内容) 妊娠の事 夫婦の事 出産検査 子供の事 産後ケア
	相談員: 保健師	0	0	0	0	0	0	0	0	
	相談員: 医師	0	0	0	0	0	0	0	0	
	相談の場	ネウボラ	ネウボラ	ネウボラ	ネウボラ	ネウボラ	ネウボラ	ネウボラ	ネウボラ	
	満足した内容/不満 な点	親身・か わいライ な	肯定的態 度・にこや か	親切・ 適切なア ドバイス	同僚発 見し支 援	指示多い 気持ち全 方 でない	専門的助 言・気持 てよく	ネウボラ 大や両親 の事も助 かる	ネウボラ 親切・確 しい	
2 時相 子どもネウボラ (1歳時期)	相談職種/回数	12	9	10	12	15	8	13	19	11.8 (相談内容) 育児 子供の健康 成長発達 育児の計画
	相談員: 保健師	0	0	0	0	0	0	0	0	
	相談員: 医師	0	0	0	0	0	0	0	0	
	相談の場	ネウボラ	ネウボラ	ネウボラ	ネウボラ	ネウボラ	ネウボラ	ネウボラ	ネウボラ	
	満足した内容/不満 な点	ネウボラ 親身で 支持	ネウボラ にこやか 専門的助 言	ネウボラ 専門的ア ドバイス	ネウボラ 同僚発 見し支 援	ネウボラ 指示多い 気持ち全 方 でない	ネウボラ 専門的助 言・気持 てよく	ネウボラ 大や両親 の事も助 かる	ネウボラ 親切・確 しい	
3 時相 子どもネウボラ (2-3歳時期)	相談職種/回数	0	3	3	2	8	3	0	4	3.5 (相談内容) 予防接種 言葉の問題 親子関係 親密な支援
	相談員: 保健師	0	0	0	0	0	0	0	0	
	相談員: 医師	0	0	0	0	0	0	0	0	
	相談の場	ネウボラ	ネウボラ	ネウボラ	ネウボラ	ネウボラ	ネウボラ	ネウボラ	ネウボラ	
	満足した内容/不満 な点	ネウボラ 適切なア ドバイス	ネウボラ にこやか 専門的助 言	ネウボラ 専門的ア ドバイス	ネウボラ 同僚発 見し支 援	ネウボラ 指示多い 気持ち全 方 でない	ネウボラ 専門的助 言・気持 てよく	ネウボラ 大や両親 の事も助 かる	ネウボラ 親切・確 しい	
4 時相 子どもネウボラ (4-5歳時期)	相談職種/回数	0	12	0	2	10	2	0	2	5.6 (相談内容) 育児 子供の健康 成長発達 育児の計画
	相談員: 保健師	0	0	0	0	0	0	0	0	
	相談員: 医師	0	0	0	0	0	0	0	0	
	相談の場	ネウボラ	ネウボラ	ネウボラ	ネウボラ	ネウボラ	ネウボラ	ネウボラ	ネウボラ	
	満足した内容/不満 な点	ネウボラ 適切なア ドバイス	ネウボラ にこやか 専門的助 言	ネウボラ 専門的ア ドバイス	ネウボラ 同僚発 見し支 援	ネウボラ 指示多い 気持ち全 方 でない	ネウボラ 専門的助 言・気持 てよく	ネウボラ 大や両親 の事も助 かる	ネウボラ 親切・確 しい	

**研究成果(4) 母性衛生学会誌 Vol.59 公表論文：藏本直子、杉下佳文、内藤直子**

フィンランドのネウボラにおける子育て支援に対する母親の評価：満足点と改善点に着目

目的：フィンランドの出産ネウボラの支援内容と満足点と改善点を明らかにすることとした。

方法：フィンランドの出産ネウボラを利用した経験の母親7名を対象にインタビュー調査を実施し、項目は相談した内容、満足点や改善点等であった。インタビュー調査データは内容分析後カテゴリー化した。結果：母親のネウボラ施設利用に対する満足点は、22 サブカテゴリーから8 カテゴリーが分類され【妊娠中の健康管理と専門知識に基づく保健指導】や【妊娠中から子育てへの継続的な見守りや支援】が含まれた。【担当者による共感的で受容的なかわり】や【担当者との円滑な信頼関係の構築】等も満足点であった。改善点では、14 サブカテゴリーから6 カテゴリーが分類され【産後の継続した家庭訪問の要望】や【担当者の対応への要望】【家庭訪問による具体的な育児指導の要望】等が含まれた。結論：本調査結果、妊娠・出産・子育て期の支援は、専門職による健康管理や保健指導、継続的な見守りが重要であり、支援の際に母親との信頼関係の構築や臨機応変な対応が求められていることがわかった。

**研究成果(5) 日本看護・教育・福祉学研究学会誌 Vol.2 公表論文：松原、内藤、藏本,他1名**

フィンランドのヘルシンキ市近郊における子どもネウボラの状況からみた日本の就学前教育の課題(Challenges of Japanese preschool education from the standpoint of Neuvola for children in the suburbs of Helsinki, Finland)

目的：切れ目ない支援モデルであるフィンランドの子どもネウボラの状況を明らかにし、それにより日本の就学前教育の子ども支援に生かす手がかりと課題を探ることとした。方法：フィンランドの保育園で、保育士2名と保育施設長1名と保育施設主任1名の計4名を対象に、インタビュー調査項目、保育システム、保育内容、子どもへの支援の状況等で実施。調査データは、内容分析を行い、カテゴリー化した。結果：分析では、コード数48で、13 サブカテゴリーを経て、最終的に【0~7歳保育は義務化】、【4歳児保育の特別体制】、【ネウボラと相互連携した4歳児を核とした子ども支援】、【ハイリスク児へのダブルチェックと個別的な専門家の対応】、【ハイリスク児の切れ目ない連携】の、6 カテゴリーが抽出。考察：保育システムは、4歳児保育を核とし保育体制によるハイリスク児を注視した支援システムであり、0~7歳保育は義務化されていた。子ども支援は、ハイリスク児に対し、保育園や学校とネウボラのダブルチェックを行い、保育園や小学校から子どもの情報をネウボラに渡し、ネウボラは、それを受けて回答する相互連携が明らかになった。結論：フィンランドの子どもネウボラは、4歳児を核に、ハイリスク児を注視するシステム状況であった。本研究の知見は、フィンランドの行政システム、歴史や教育・医療制度、人口規模などの背景要因が異なり、そのままの形で日本に導入可能ではない。今回のフィンランドのネウボラ調査研究で明らかになった「保育園と学校との相互連携」、「子どもネウボラシステム」などの知見は、日本では支援の一本化を目指した活動の始まりに影響していると言える。子どもの健やかな発育発達の視点から、今後、多くの地域でハイリスク児を含む子ども支援が切れ目なく行われるために、益々の検討が課題である。異常のほか、各種の学会で精力的にネウボラ研究のポスタ発表を行い、いずれも多くの質問があり、関心の高さに明らかであった。これらも、子育て支援や、産後ケア実施者にとり本研究の社会的波及効果の一部と考える。

**研究成果(6)**

本研究の保健師職種として、愛知県大府市の承諾が得られたので、保健センターにてネウボラ的支援会議を開催した。フィンランド調査後に、ネウボラのインタビュー逐語録やネウボラ施設内部の写真を提供した。その後、新たに「ネウボラ的子育て支援センター」が開設され、毎



月 100 組の母子が楽しく利用しており、本研究の社会的波及効果が見られたと考える。

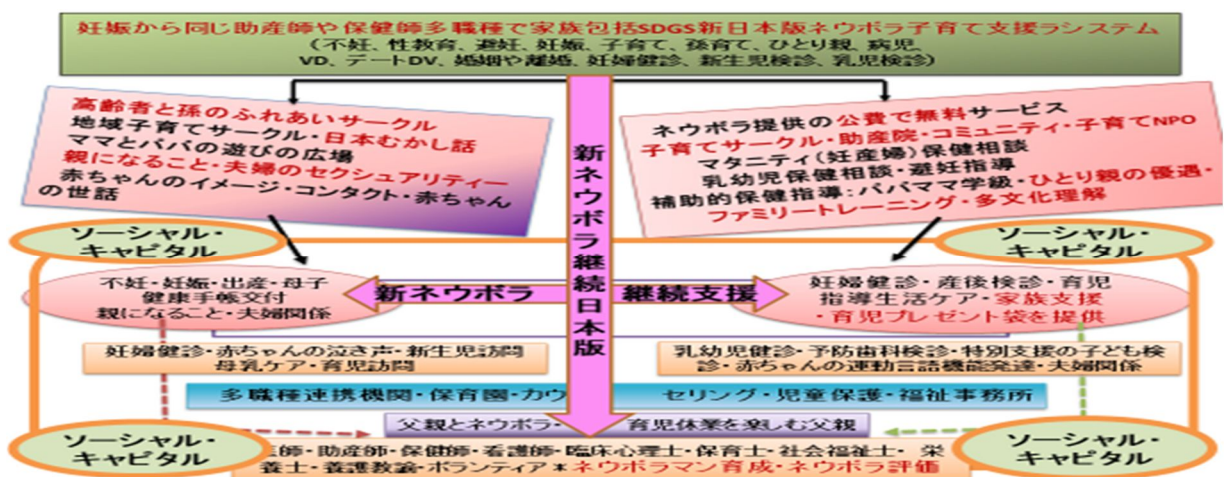
## 研究成果 (7)

2019 年 4 月より「大学発ネウボラの継続母子支援センター」は開設され、筆者らは、積極的に参画した(写真 6)。地域の母子や大学生たちが多く参加(延べ 210 人)したが、参加者への研究調査は実施しなかったが、これらも、本研究の社会的波及効果の一部と考える。



写真 6: 大学発ネウボラの継続母子支援センターの実施風景

本研究当初の仮設図として「新日本版ネウボラ子育て支援構築案」を提案したが、研究成果として、下記の「妊娠から同じ助産師や保健師の多職種で家族包括 SDGS 新日本版ネウボラ子育て支援システム」を提案(図 1)する。



## 5. 考察の概要

フィンランドでネウボラ保健師と利用の母親、関連保育園長、ネウボラ運営・企画者に実態調査を行い(表 4)、ネウボラ全体の可視化と評価を 6 論文に公表した。国内で助産師や保健師と連携し、協力の A 保健センターでネウボラ的支援センターや B 大学でネウボラの継続母子支援センターを開設し 0~6 歳児母子支援を実施した。現在全国で「子育て世代包括支援センター・日本版ネウボラ」が設置されユニークな実践が開始された。今後本成果の「妊娠から同じ助産師や保健師の多職種で家族包括 SDGS 新日本版ネウボラ子育て支援システム」構造図(図 1)から、日本の従来の独自支援法で、保助看専門職に多職種連携し自由度の高い地域性を尊重した市町村を交えソーシャルキャピタルで、高齢者と子どもの世代間交流の支援が必要であると考察した。

## 6. 主な発表論文等

【雑誌に公表論文】(計 6 件)、【学会発表】(計 8 件)、【ワークショップ開催】(計 1 件)

## 7. 研究組織

- (1) 研究代表者: 内藤直子 (NAITOH NAOKO)、岐阜保健大学・看護学部・教授
- (2) 研究分担者: 杉下佳文、藏本直子、三徳和子、松原紀子、横山美江、下村明子、奥川ゆかり、志戸岡恵子
- (3) 研究協力者: 大府市の子育て支援課の保健師
- (4) 研究連携者: 星 貴江、朝岡みゆき

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 藏本直子、杉下佳文、内藤直子、松原紀子	4. 巻 59
2. 論文標題 フィンランドのネウボラにおける子育て支援に対する母親の評価	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 母性衛生	6. 最初と最後の頁 931 ~ 938
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） <a href="http://square.umin.ac.jp/jarfn/">http://square.umin.ac.jp/jarfn/</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 内藤直子、藤原奈佳子、杉下佳文、三徳和子、下村明子
2. 発表標題 フィンランドにおける妊婦と子どもに対するネウボラの歴史的変遷から見た家族支援の施策
3. 学会等名 日本家族看護学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Naitoh Naoko, Hoshi Kie, Matsubara Noriko et al
2. 発表標題 The characteristics and current status of using a baby box and maternal and child health handbook of mothers : the Neuvola in Finland
3. 学会等名 第1回日本ヒューマンヘルスケア学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 内藤直子、志戸岡恵子、朝岡みゆき他
2. 発表標題 フィンランドA地区における特化された出産ネウボラのネウボラ員支援システムの実態
3. 学会等名 第58回母性衛生学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 内藤直子、松原紀子、蔵本直子他
2. 発表標題 写真にみるフィンランドの妊娠から就学前までつながるネウボラのアメニティ
3. 学会等名 第58回母性衛生学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Matsubara Noriko , Naitoh Naoko , Hoshi Kie , et al
2. 発表標題 The characteristics of education provided in nursery schools that cooperate with child health centers in the suburbs of Helsinki
3. 学会等名 第1回日本ヒューマンヘルスケア学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松原紀子、内藤直子、杉下佳文他
2. 発表標題 フィンランドの保育施設の特徴と子どもネウボラとの相互連携
3. 学会等名 第58回母性衛生学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 内藤直子、三徳和子、松原紀子、Tuovi Hakulinen
2. 発表標題 フィンランドの出産ネウボラと子どもネウボラを利用した母親の4時相での実態
3. 学会等名 第76回日本公衆衛生学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 朝岡みゆき、志戸岡恵子、奥川ゆかり他
2. 発表標題 切れ目ない子育て支援のモデルといえるネウボラに関する文献検討
3. 学会等名 第1回日本ヒューマンヘルスケア学会学術集会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	杉下 佳文 (Sugishita Kafumi)  (00451766)	人間環境大学・看護学部・准教授  (33936)	
研究分担者	藏本 直子 (Kuramoto Naoko)  (40377677)	人間環境大学・看護学部・講師  (33936)	
研究分担者	三徳 和子 (Mitoku Kazuko)  (60351954)	人間環境大学・看護学部・特任教授  (33936)	
研究分担者	松原 紀子 (Matsubara Noriko)  (70760289)	人間環境大学・看護学部・講師  (33936)	
研究分担者	横山 美江 (Yokoyama Yoshie)  (50197688)	大阪市立大学・看護学研究科・教授  (24402)	



## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	下村 明子 (Shimomura Akiko) (30310733)	一宮研伸大学・看護学部・教授  (33944)	
研究分担者	奥川 ゆかり (Okugawa Yukari) (30515763)	椋山女学園大学・看護学部・講師  (33906)	
研究分担者	志戸岡 恵子 (Shidooka Keiko) (60737477)	摂南大学・看護学部・講師  (34428)	